

新宮山彦ぐるーぷ第1972回―2
春季連休中持経宿への来宿者の対応と

補修作業(千年檜以南に段差設置)

◇実施日：平成30年05月01日(火)～03日(木・祝)
◇参加者：村吉光夫。計1名。

5月01日(火) 晴時々曇 (来宿者1名)

今回はGWに合わせた休みが取れなかったため、小屋番というより階段設置作業が目的の小屋入りになりました。

作業の山場となる2日が雨の予報でしたので予定を繰り上げて1日の朝から持経宿に入りました。

池郷林道は30日に沖崎・児嶋・梶野・豊嶋さん達が、整地されたとの事でかなり快適です。

9時頃には持経宿小屋に到着。持参の20ℓポリタンクと小屋のポリタンクを車に積んで、白谷林道の平治沢に行つて水汲み70ℓ。小屋の前に置いて自由に使つて頂けるようにする。

逆峯奥駈を通して歩いている人が、午前中だけで10人以上。

皆さん単独なのに休日パターンが同じせいか集中している。内女性一人が、女人結界で迂回しているので「通して歩きたかった」。

作業場所は、千年檜のお堂から南へ200m位の痩せ尾根。

木の根を踏んで通過している段差の「木の根」を保護するため、石を被せて階段を作ります。防腐加工した丸太で階段の枠を作り、小石を入れて木の根を直接踏まずに歩けるようにします。

2日の雨を考えると出来るだけ初日に作業を進めたいところ、林道三差路に車を停めて防腐丸太や鉄筋などを繰り返し運びます。枠を作つてから、やはり林道三差路の辺りで崩れている石を拾つて運び、2段目までは石入れも含めて完成。

玉岡さんに仕込まれたように、石を背負いながらも手には杭を一

本持つなどしたお陰で石以外の資材も運び終えて、作業の目途がついて16時頃に小屋に入りました。

平日のせいか誰も来ないな―と思った17時過ぎに若者が、1名来宿した。

5月02日(水) 雨 (来宿者5名)

予報では9時頃から小雨で午後には本格的に降るらしい。

若者の出発と合わせるように私も6時頃に外に出て石運びを始める。非力な私は作業の進捗が遅いのはいつもの事だが、今日は雨にせかされる気分で、いつもより休憩しないで進む。

最初の雨が降り出し時計を見ると7時半。予報より早いので「イヤだな」と思いながらも、小雨なので作業には影響なし。

午後には雨具を着けての作業。雨の中を歩きながら昔の事を思い出す。

私が初めて行仙に来るようになった頃、管理棟の材となる間伐材を間伐現場から行仙小屋に運ぶ作業がありました。間伐材を斜面からウインチで引き上げるのに合わせて斜面を登り、もし材が引かなかつたらすぐに引っかけを外す役です。交代で作業しますがなかなかしんどい。

この時も行仙宿小屋で弁当を食べている頃から雨になりました。食べ終わる頃に玉岡さんが一言「雨が降り出して危ないから・・・」。私は作業中止かと思つたのですが、続いて出てきた言葉は「みんな、気をつけて作業してな！」

雨にせかされるように作業を続けると15時頃に登山者から「私は平治宿に行きますが、持経宿泊りの人が4人歩いています」と教えられる。

完成の目安も見えたので16時に小屋に戻る。

男女4人が別々に到着。グループでは無いが二日間同じ行程で歩いているので仲良しグループのようだ。この他の1名と合わせて5人が宿泊。

玉置神社での宿泊は、食事なしでお湯だけ渡される方法になっていると教えて頂く。

改造ストーブは快調、薪の燃焼が速いのが少々気になります
が・・・夜には大雨。

5月03日(木・祝) 曇 後晴れ

予報通りに朝に雨が止む。一人は雨の中を早朝出発。2人は池郷林道から池原へ下山、他の2人は行仙宿までの予定でゆっくり出発。池原に向かった2人が戻って来て「オジサン、木が倒れていて車が通れないよ！」と教えてくれる。

林道をチェックしようと思ったが落石用のハンマーは、作業場に置いて置いてある。

最後の小石運びを兼ねて痩せ尾根まで行き、第一次段差設定を完成させハンマーを回収し、写真も撮りながら「作業前の写真を撮り忘れたなあー」。

車に戻り林道チェックに走り出したら倒木現場には、既に豊嶋・樋口・前田・久保さん達が作業中。一緒に小屋に着いた後、私は2度目の水汲70ℓを補充し作業終了。カップヌードルを食べて13時に小屋を後にした。
(記；村吉)

